

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中
送信先: report@r-ict-advisor.jp

報告日
派遣決定番号
報告回次 3日目

令和4年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	鎌倉市	代表者名	松尾 崇		
担当者部署	共生共創部政策創造課スマートシティ担当	連絡先電話番号	0467-23-3000		
担当者役職	担当主査	担当者氏名	若松 繁	連絡先E-mail	
住所	248-8686 神奈川県鎌倉市鎌倉市御成町18番10号				

1-2. 推薦団体 (「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変よい
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	データの利活用やオープンデータの拡充に向けた庁内意識の醸成を図るために、他の自治体の状況や課題を共有いただきつつ、その中でも先進的に取り組んでいる事例を踏まえ、どのような進め方が望ましいかの具体的なアドバイスをいただいた。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日 (申請書より)	支援内容 (申請書より)	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
			有	令和5年2月3日	537
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間 (分)
	令和5年2月6日	フォローアップ (オンライン)	10時00分	11時00分	
				活動時間 (分)	60
3-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

4. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性 (職員、一般、企業等) について【自由記述】	人数
	職員	3 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	これまで市ではオープンデータの拡充に向けた研修やワークショップを開催したが、その後の機構改革や人事異動の結果、継続的な取り組みにつなげることができなかった。また、職員は日々の業務に忙殺され、データの利活用やオープンデータといった、新たな視点に目を向ける余力が残されていない。	
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	鎌倉市の現状を踏まえ、今後の研修の進め方についてアドバイスをいただき、取り組むべき内容を理解する。	
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	○庁内で実施している同様の研修があれば統合する。各課横断的に合同で研修を行うことが良い ○職階級別ではなく、スキル別の研修をすることが望ましい ○庁内で講師ができる職員を養成すべき、総務省開発プログラムのデータアカデミーを活用するのも良い ○職員が納得し、研修内容を実感し、理解を深めるためには、自分達の業務判断に役立つデータのダッシュボード化など、まず自分達が使うものの整備が必要	
支援を受け改善又は解決された内容	○鎌倉市の現状を踏まえ、今後の研修の進め方についてアドバイスをいただいた ○総務省開発プログラムのデータアカデミーなど、職員養成のプログラムについて理解した	

(具体的にご記入下さい)	○他自治体のデータ利活用の研修事例や取り組みについて理解した ○他自治体のデータ利活用の研修事例や取り組みについて理解した	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 特になし	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケートは研修時に実施いたしました。(第2回目報告分)	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	職員一人ひとりがデータの利活用やオープンデータの意義を理解し、業務の生産性向上を図るとともに、オープンデータの創出が庁内の組織風土として定着し、市民や企業に有益なオープンデータが拡充することで、官民共創の新たなスマートシティサービスを生み出す仕組みにつながる。	

未記入のセルが有ります。以下の項目に水色と黄色のセルが残っていないかご確認下さい。
なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

報告日

1-1.

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



Live polls Audience Q&A Analytics Settings

Participants

Questions for review

You can review incoming questions before they appear live

Upgrade

Live Archive

Anonymous 23 Jan, 11:07am
オープンデータを無難にするというのはハードルが高いように感じますが、世方を考えればこれまで行ってきた情報公開の「形」を案外「実行」なのかもしれないと感じました。あまり見えませんが、オープンデータ活用というところから意識することで行政の業務負担が少しづつ軽減していくのかなと思います。

Anonymous 23 Jan, 11:46am
オープンデータは官民共創という文脈もありますが、そもそも「公開性」が前提。ということからうまくアプローチで展開しました。「データに基づいた意思決定」はオープンデータ化されている」となれば納得せざるを得ない。情報公開のコストは削減される可能性は高くなります。

Anonymous 23 Jan, 11:05am
課外で学ぶオープンデータの重要性、様々な視点/ノウハウを知りたい。様々な行政よりも民間が豊かである。データが公開されてくると、行政にもいいけど、競争に負けるのが怖い。知らないデータも活用して、サービスなどの改善が求められる。期待できそうです。

Anonymous 23 Jan, 11:31am
まずは積極的に市民の報告、スペースでの意見交換を案内して

謙ス

